



【特集】未来を創るデザイン:シンガポールの「水」と「都市開発」

～ シンガポール海外研修 ～ 2026年3月19日(木)～26日(木)

1年生12名、2年生10名、合計22名が上記日程で1週間シンガポールに研修へ行きました。
今回の研修テーマは「水」「多文化共生」「最新テクノロジー」を多角的な視点で学ぶことです。

【3/21(土)】シンガポール植物園 → カトン地区 → アラブストリート → マーライオンパーク
→ 富の噴水 → アートサイエンスミュージアム → ガーデنزバイザベイ

松商学園のSSH海外研修では、日本の奄美大島ほどの面積(約735km²)しかないシンガポールが、どのようにして世界トップクラスの都市へと成長したのかを、「水」と「都市開発」という2つの大きなテーマで調査しました。1日目はシンガポールの文化背景を知る行程です。



シンガポールの歴史的なプラナカン文化を残すカトン地区やアラブストリートといった多文化共生地区を訪れました。その後、世界でも有数の植物園のガーデンズバイザベイで様々な植物を観察しました。

【3/22(日)】マリーナバラージ → セントーサ島

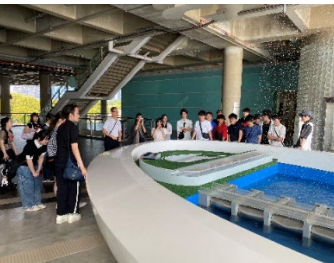
1. 資源ゼロからの挑戦:シンガポールの「水政策」

シンガポールには大きな山や川がなく、生活に必要な水の多くを隣国のマレーシアから輸入しています。この「水不足」という死活問題を解決するための知恵を、巨大なダム施設「マリーナバラージ」で学びました。

2. 100年先をデザインする:シンガポールの「都市開発」

シンガポールが世界中から人を惹きつける理由は、綿密に計算された都市のデザインにあります。シンガポール都市再開発局(URA)では、これまでの歩みと未来への展望を学びました。

「見える」開発: マリーナベイサンズの地上約200メートルのスカイパークからは、整備された街並みを一望できます。教科書で学んだ「都市計画」が、実際の街としてどう機能しているかを肌で感じることができました。



マリーナバラージはシンガポールの国策の1つ水政策で重要なダム施設です。国土が狭く山が無いので、効率的な貯水システムが必要なシンガポールならではのアイデアを学ぶことができました。

【3/23(月)】南洋理工大学(NTU)にて大学生と交流、キャンパスツアー
→ ジュロンレイクガーデンズ → クラークキー

最新テクノロジーとの融合: 南洋理工大学(NTU)にある「HIVE(ハイズ)」のような革新的な建築物や、空港にある世界最大の室内滝「レインボルトেকス」など、単なる便利さだけでなく、デザインと技術が融合した都市の姿を目の当たりにしました。



シンガポールにある理系難関大学の1つ NTU で、学生と英語で交流し、キャンパスツアーをしてもらいました。有名な HIVE (写真右) と呼ばれる建物の見学もさせていただきました。

**【3/24 (火)】シンガポール国立大学 (NUS) の学生に探究内容を英語で発表
→ B&S プログラムで学生とフィールドワーク**



世界トップレベルの NUS 学生4名に英語で各自の探究内容を発表し質疑応答をした後、地域課題解決のアイデアを一緒に考えてポスター発表するワークショップに参加しました。午後は学生とフィールドワークに出かけ、街中にある様々な生活の工夫を発見したり、多文化共生のアイデアを学びました。

**【3/25 (水)】シンガポール都市再開発局 (URA) →シンガポール国立博物館
→マリーナベイサンズ→チャンギ国際空港へ**



URA は、現在も再開発を続けるシンガポールのこれまでの都市開発の流れを学び、今後の展望や課題が分かりました。シンガポールの象徴的なホテル、マリーナベイサンズのスカイパーク (屋上の船のデッキ部) からシンガポールの町全体を見ることができました。

3. なぜ松商学園でこれを学ぶのか？

松商学園の SSH が目指すのは、「課題を自ら発見し、新たな価値を創れる人」になることです。

世界トップレベルとの対話: 世界大学ランキング上位のシンガポール国立大学 (NUS) の学生と、地域課題の解決策について英語でワークショップを行いました。

本物の探究: 教室での知識を「使える知識」に変えるために、海を越えて現地へ行き、専門家や大学生と議論を重ねる。このプロセスこそが、松商学園が大切にしている「探究」の姿です。

生徒の日記より

世界トップレベルの壁に挑む (3/24:NUS にて)

「世界大学ランキング上位のシンガポール国立大学 (NUS) で、自分たちの探究内容を英語で発表しました。最初は、自分たちの英語が通じるか不安で足が震えましたが、現地の学生たちが真剣に耳を傾け、鋭い質問を投げかけてくれたことで、一気に熱が入りました。地域課題の解決策を一緒に考えるワークショップでは、国籍を超えて議論が白熱!『正解のない問い』に挑む楽しさを知り、もっと英語を磨いて世界とつながりたいと強く思いました。」

知識が「確信」に変わった瞬間 (3/25:マリーナベイサンズにて)

「研修で学んできたシンガポールの『水政策』や『都市開発』。その集大成として、マリーナベイサンズの屋上スカイパークから街を一望しました。教科書で見た『限られた国土を活かす知恵』が、目の前の美しい夜景や整備された港として存在していることに感動しました。最後には、ガイドさんの計らいで予定外の『レインボルテックス (巨大な室内滝)』へ。『本物を見て、考える』という松商 SSH ならではの経験が、私の視野を一気に広げてくれました」